

# 硫安などの普及推進

## アグリ事業の展開に注力

新ケル  
ミカ事  
ル商

下水汚泥等)の肥料化にも取り組んでいる。

最近では、長年アミノ酸系有機肥料で定評のある昭光通商アグリと、水稻や園芸用の培養土メーカーである昭和培土を、新たにグループ会社に迎え、より幅広く多様な現場ニーズに応えることに取り組んでいる。

「SDGs」に関して「鉄鋼から農業へ(硫安)」「農業から鉄鋼へ(糞肥)」として、輸入もみ殻の使用量を減らし、循環型社会への構築に貢献したり、副産物や未利用資源を有効活用すること、国内肥料資源の利用拡大に貢献したり、取組みを行っている。

新ケミカル商事(東京都半代田区外神田1-18-13秋葉原タイビル)アグリ事業部は、日本製鉄をはじめ国内各社の硫安(硫酸肥料)を普及する事業を中心に展開、アグリ事業に注力し、期待を集めている。

同社は、建材、化学品・樹脂、肥料・コークス等を取扱う専門商社。農業に関して、硫安のほか、農業生産に不可欠な各種肥料原材料の取扱いかから未利用資源(スラック、もみ殻、堆肥、食品残渣、

関連パートナー会社として、前に掲げた2社に加えて、肥料製品の取扱い等を行うみらいアグリと、産直システムで青果流通をトータルにサポートする昭光ファームネットもあつた。